

新居浜の

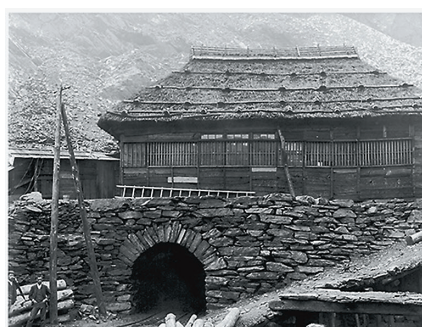
産業遺産物語

物語⑩

第一通洞（南口）



現在の第一通洞（南口）



「鉱山採鉱課一番坑道坑口兼隧道口」
（明治31年別子鉱山写真帳）住友史料館所蔵

第一通洞は、銅山越（標高1294m）を挟んで別子側の東延と新居浜側の角石原（かどいしはら）を結ぶ全長1021mの鉱山用トンネルです。標高約1100mにある水平運搬用坑道で、鉄軌道（レール）が敷かれ、牛車や人車（トロツコ）で物資を運搬しました。

第一通洞の開削は、代々坑（だいたいこう）という水抜き坑道を利用して明治15（1882）年に着手されました。広瀬幸平が他の鉱山に先駆けてダイナマイトを使用し、明治19年に開通しました。明治35年の第三通洞貫通で東平が採鉱の中心となり、明治44年に上部鉄道が廃止されるまで主要な運搬坑道でした。

第一通洞（南口）の坑口は石造りのアーチ型で、往時の姿を現在に伝えています。古写真は明治31年に撮影された「別子鉱山写真帳」に収められている1枚です。現在、広瀬歴史記念館では、特別企画展「明治最盛期の別子銅山を活写した光村利藻〜明治三十一年写真帳の世界〜」を開催していますので、ぜひご来館ください（12月14日まで）。

別子銅山文化遺産課

☎ 65 - 1236

広瀬歴史記念館

☎ 40 - 6333

広告欄

